

平成28年度 (公社)日本ホッケー協会中学校部会 第2回常任委員会議事録



日時:平成29年2月25日(土) 13時00分～

於 :埼玉県飯能市富士見地区行政センター (埼玉県飯能市大字大柳1-16)

参加者 (敬称略)

中学校部会会長 : 木口秀一 (秋田県 : 羽後中学校長)
副会長 : 森山智紀 (大分県 : このえ緑陽中学校長)

常任委員 : 吉原 荘二 (東北) 倉脇 邦子 (北信越)
大嶋寿美 (関東) 小酒井梨紗 (東海)
鈴木 良子 (近畿) 道端 良之 (中国)
岩尾 幸美 (九州)

U16 海外遠征事務局 : 幸田 伸也

H29 年度全中大会事務局 : 岩尾幸美 (兼務)

中学校部会役員 : 馬場治男 (事務局長兼競技部長) 平尾 豊 (審判部長)
北島沙紀 (会計) 久保克敏 (事務局)

常任委員会
・ 構成員 : 15 名
・ 出席者 : 14 名 (過半数)

規約 第 6 章 第 19 条に
則り本会は成立

文責 : 久保克敏 (事務局)

1 開会

2 あいさつ

会に先立ち、木口 秀一中学校部会長 (秋田県羽後中学校長) にご挨拶をいただいた。

今年 8 月に行われた全日本中学生ホッケー選手権大会について、今大会中に怪我による対応で、学校管理下での重要性が改めて再認識できたことについて触れられた上で、素晴らしい大会になったことに対するお礼を述べられた。また、都道府県対抗 11 人制大会及び U16 オーストラリア遠征について関係者の労をねぎらっていただいた。

最後に、この一年間ホッケーに携わって多くの方々に出会い、お世話になったことのお礼をいただいた。

次に、今会議の会場である埼玉県飯能市より、飯能市教育委員会教育長 今井直己様よりご挨拶をいただいた。

3 協議事項

(1) U-16 オーストラリア遠征について—報告—

資料 1-1、1-2

女子監督 (道端良之)、男子コーチ (大嶋寿美)、海外遠征事務局 (吉原荘二) より資料に基づいての報告があった。

(2) 第 17 回都道府県対抗 11 人制ホッケー大会について—事務局 : 久保

○大会の反省等

・特に大きなトラブルもなく大会は円滑に運営されていた。大会を連続をして開催していただいている福井県 (越前町) に一同感謝をした。

(3) 平成 28 年度「事業報告」及び「決算 (中間まとめ)」 (事務局)

①平成 28 年「事業報告」～中間まとめ～

資料 2-1・2-2

今年度の事業報告を別紙の通り報告をする。

②平成 28 年「決算報告」～中間まとめ～

今年度の決算報告を別紙の通り報告をすることを確認した。

(4) 平成 29 年度中学校部会役員 (案) (事務局)

資料 3

- ・ 会 長 . . . 今年度全中大会開催地 (大分県このえ緑陽中学校) より森山智紀校長先生をお願いする。
- ・ 副会長 . . . 次年度全中大会開催地 (島根県) より校長先生を選出いただく。
- ・ 常任委員、専門委員の交代について確認→人事異動も関係をするので決まり次第事務局 (久保) まで旧常任委員 (H28 年度) が報告をする。

(5) 平成 29 年度「事業計画 (案)」及び「運営費予算 (案)」 (事務局)

①平成 29 年「事業計画 (案)」について

資料 4-1・4-2

来年度の事業計画を別紙の通り報告をする。

次年度より、全中ブロック予選大会に TD (ブロック予選については TO 資格者が TD として対応をしてもよい) を設けることが、日本ホッケー協会より通達されたことに触れられた。

各ブロックで合同チームによる全国大会参加を希望しているチームがあれば、5 月下旬 (日程、場所は未定) に、第 1 回目の常任委員会までに、事務局まで報告をすること。なお、その際は、当部会が認める合同チームの条件を満たしていることが条件となるので、各ブロックで周知徹底をすること。

②平成 29 年「運営費予算 (案)」について

来年度の収支予算書を別紙の通り報告をする。

(6) 全国大会内規事項 (事務局)

資料 5

内規事項 3 (全国大会開催決定について) につい

- ・ H30 年度以降の全中大会開催地について

H29 : 九州ブロック . . . 大分県で決定

H30 : 中国ブロック . . . 島根県で決定。

H31 : 近畿ブロック . . . 滋賀県が立候補 (内定) 今後は、事務局の方で滋賀県の方に挨拶へ

平成 31 年度は、近畿ブロック開催であり、滋賀県が立候補をさせていただいている。滋賀県開催をした場合は、3 面のウオーターベースと 1 面のロングパイルでの変則開催となるが、運営面の工夫により、ピッチの違いによる有利不利がでないよう競技運営に努めることを条件に、滋賀県での開催をお願いすることに決定した。

～滋賀開催を決定した主な理由～

①近畿ブロックで滋賀県以外の立候補がない。

②ブロック開催の輪番は、原則として崩さない。

③全中開催にあたっては、「全日本ホッケー選手権大会内規事項 3. (3)」にあるように、全中大会を開催することが開催地にとって何らかの追い風となるようなことも考え開催地を選定していく。(例：開会開催が新規ホッケー場の建設や人工芝張り替え等の後押しをするなど . . .)

H32 : 東海ブロック . . . H29 年度中に打診をして、候補を絞り込む

(7) 第 47 回全日本ホッケー選手権大会 (大会実行委員会 : 岩尾大分県ホッケー協会)

平成 29 年度の大会の概要について大会実行委員会事務担当者の岩尾先生に出席いただき「実施要項」「競技運営規程」「会場関係」「宿泊・弁当要項」など現在の状況報告があった。

- ・各ブロック参加枠数の検討・・・但し、正式決定は5月の常任委員会で決定。
- 《方法》ア) JHAに登録し、ブロック予選もしくは各都道府県予選等に参加した実績があり、「個人登録料」を納入したチームにより比例配分し、各ブロックの参加チーム数を決定。
 - イ) 開催地の大分県に「開催地枠(1)」を設ける。
 - ウ) 北海道は不参加、四国は参加
 - エ) 全国大会における各県の参加上限を2チームとする。(※開催地枠は除く)

平成29年度より、全中出場ブロック枠を最大「4」にする方向で、今年度進めてきた。今回、常任委員会でも各ブロックからの意見を聞き、概ね最大「4」で了承いただいた。次に、その削減をした参加枠を、どのように配分するかという議論を重ねる中で、「前年度優勝ブロック」に1枠を与えるという案で決定した。しかし、「前年度優勝ブロック」については前年度(平成28年度)には決定をしていなかったことであることから、この「前年度優勝ブロック」の運用については、平成30年度から実施するべきと判断した。このことにより、次年度については現状の「最大5」で開催し、平成30年度より「最大4」+「前年度優勝枠(1)」により実施することが決定した。(地元開催枠は継続)

平成29年度 大分全中ブロック枠

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	開催枠	合計
男子	0	3	4	3	2	5	3	1	2	1	24
女子	0	3	4	5	2	4	3	1	1	1	24

中学校部会としては下記の点は留意点として確認をした。

- * 全中大会の宿泊についての留意事項
 - 大会期間中については、必ず大会事務局を通して宿泊申し込みをする。
 - 弁当については、以前より希望制としている。
 - 配宿は近畿ブロック大会の結果が出次第、一斉におこなう。
- * 全国委員会、監督会議には必ず参加すること(重要協議事項あり)。厳守
- * 男女の監督を兼ねることはできない(監督は教員であること)。
- * プログラム作成の関係上、近畿ブロック全チームには事前にエントリーフォーム等のデータを送っていただくように要請。
- * 大会前日には、公式練習場の開放をお願いをする。

(8) 競技部・審判部より・・・・・・・・・・ 別紙資料

平成29年2月11、12日行われた、日本ホッケー協会全国ルール統一研修会に出席いただいた馬場先生(中学校部会競技部長)、平尾先生(中学校部会審判部長)より報告をいただいた。

★平成29年度6人制規則変更点

ポイントは下記の点です。

- ① ゴール内に防具等を置かない。
- ② 7人以上での試合 注釈追加
- ③ フィールドプレーヤーの防具規定
 - 大きさの規定 着用の仕方
- ④ PC時使用の装具にボールが当たった場合の再開方法
- ⑤ FHの規定(H28.2 通達済み)
- ⑥ PS時の守備者規定 追記
- ⑦ PS守備の違反行為に対する罰則
- ⑧ 審判員のシグナル コーナーのシグナル変更
- ⑨ コート図

★レギュレーションの確認

注：SO 戦の順番の申告制廃止

(9) その他

- ・ 合同チーム編成条件の再確認
 - * 学校長の承認は必要・・・学校管理下による大会実施を守る。
 - * 教員による引率が必ず必要である。
 - * 合同チームとして認められる範囲は・・・活動実績のある3チームまで
 - * レンタルによる合同チームについては、全中大会では認めない。

合同チーム申請の流れ

4月に中学校部会 HP に「合同チーム申請書」をアップする。



5月（第2週の土曜日を締め切りとする）までに申請書を提出
事務局（申請書提出）と各ブロックの常任委員に報告



第1回目の常任委員会で確認・承認

* 合同チームについて

次年度開催大分県の状況を九州ブロック常任委員の岩尾先生より報告があった。現在、統廃合が進む中で大分県の現在ホッケー部の存続している4つの学校が平成31年に統合が決まっており、次年度の大会は4つ学校の合同チームを認めてもらいたいというものであった。常任委員会では、既に統合が決まっていることを加味して、当該ケースについては4校による合同チームを認めることを決定した。

- ・ 全国大会優秀選手の選考について
現状を踏襲していく方向で考える
- ・ ジュニアユース U16 日本代表チームについて・・・（遠征事務局）
次年度も今年度と同じ時期にオーストラリア（パース）遠征をおこなう予定である。
日程は11月19日（日）出発～28日（火）帰国（予定）FHE カップ参加予定

連絡事項・その他

4 閉 会

会の終わりに、森山智紀中学校部会副会長（大分県ここのえ緑陽中学校長）より、当会議で長時間にわたり丁寧な審議がおこなわれたことに対するお礼と、この1年間の役員に対するお礼をいただいた。また次年度は大分での全中開催となり、万全の体制で大会が運営できるように役員へ協力をお願いしたいとのべられて閉会となった。